

第1部 [つがる縄文の詩]

Hanako Henty Quintet

華子ヘンティクインテットのメンバーは米国、韓国そして青森から不思議な縁で集まったバンド。横浜菜の花フェスタ、外ヶ浜や油川ジャズフェスタに出演。八戸市の「いわぶち響堂」や先日閉店した「jazz time DISK」など青県内を中心に活動している。

<メンバープロフィール>

■Hanako Henty (華子 ヘンティ) ~ リーダー、ピアノ、ボーカル

作詞作曲編曲ピアノを担当。ペンシルベニアマンسفールド大学を経て、マイアミ大学フロスト音楽学校で、ジャズの第一人者 Gary Lindsay の元、Jazz and Studio Writing を学び、3つの修士課程を取得。マイアミ大学ではティーチングアシスタントとして音楽を教える傍ら、クルーズ客船などで演奏をした経験を持つ。

■Aidan Morrison (エイダン モリソン) ~ ギター、三味線

アメリカ、シアトル生まれ。2015年に来日。ギター、三味線、琴などの楽器でジャズから民謡まで、様々なジャンルを演奏し、県内で幅広く活動中。

■Raemon Kang (レイモン カン) ~ テナーサクソフォン

カリフォルニア州ベイエリア出身の韓国系アメリカ人のサクソ奏者。サンノゼ州立大学でジョン・シフレットに師事。音楽学士号を取得。グラミー賞にノミネートされた Hristo Vitchev、Joe Derosé と共演や Kero One、Tracy Cruz とのレコーディング経験もある。

San Jose Jazz Festival、Concord Smooth Jazz Festival、Jarasum Jazz Festival、ジュンティーンズ・フェスティバル、南郷ジャズフェスティバルに参加し、サンフランシスコ/ベイエリア、ソウル、青森など様々なクラブやイベントに出演。

■Kouji Nakata (中田晃二) ~ ベース

三沢市在住、主に八戸市を中心にベース、ギターで音楽活動に参加。ロック、ポップス、アコースティック、ジャズなどジャンル、形態を問わず演奏し、録音、音楽制作にも携わっている。

■Hiroyuki Katamine (片峰宏行) ~ ドラム

14歳でdrum setの魅力に取り憑かれてレッスンを始める。高校卒業後東京に上京してプロドラマーの猪俣 猛氏のローディーをしながら直接指導してもらい腕を磨く。数年後地元八戸に戻り、自身のバンド「インサイド・ビート」を結成。現在は、八戸市小中野にある「いわぶち響堂」で毎月3回ライブ活動を行っている。



第2部 [愛のカンツオーネ]

森 一幸 (もり かずゆき)

昭和27年青森市生まれ、造道小中学校、青森高校、北海道大学卒業。44歳からカンツオーネの第一人者故荒井基弘氏に師事し、二足のわらじを履き歌いはじめる。故藤原章雄、池田順氏に発声法を学ぶ。多くの落選を乗り越え、52歳太陽カンツオーネコンクール・クラシック部門優勝。66歳東京国際音楽コンクール歌曲部門入選。クラシックカンツオーネ、ポピュラーカンツオーネ、イタリア歌曲、日本歌曲少々、オペラアリア少々、ポピュラーソング少々を歌う。訳詞・作詞・作曲少々。毎年東京浜離宮での「夏の祭典・ナポリターナ競演」に出演。コロナ前まで数年青森市で、現在東京のライブハウス・ホールで時々歌う。67歳 CD【イタリアの愛の風が吹く】自費作成。



宇津木貴子 (うつぎ たかこ)

国立音楽大学を卒業後、河合音楽教室の講師を経て1993年より吉祥寺の荒井基裕カンツオーネ研究所ピアニスト、サンケイ学園自由が丘ナポリターナ教室講師。アマチュアやプロ歌手のコンサート、歌のコンクールの伴奏等に数多く出演、カンツオーネの他、シャンソン、クラシック等ジャンルにこだわらず活動している。



第3部 [JAZZ と民謡の融合]



■森田万里子（篠笛）

13歳から中学の吹奏楽部にてフルートを始める。20歳のときにフランクウェス、中川昌三氏のレコードを聴きジャズフルートに目覚める。飯田ジャズスクールのアンサンブルコースにて、大森明氏に師事する。同時期に同校のフルート課の初代講師となる。24歳で結婚、三児の母となる。約10年間のブランクを経て、39歳でまた音楽活動を再開する。現在、都内、神奈川方面にてライブ活動中。2014年7月1日ファーストリーダーアルバム「COLORS OF LIFE（この世にある全ての色彩）」をリリース。ジャズ、クラシック両方面から高い評価を受ける。2017年1月から民謡を佐藤錦水氏に師事。同年6月19日2ndアルバム「SONG FOR CHIYO（ちよの唄）」をリリース。篠笛でお囃子や民謡を演奏するなど、幅広く演奏活動をしている。メロディアスで力強いフレーズと、音質に非常に優れていることに定評がある。ジャズからボサノバ、ポップスまで幅広い演奏活動を行っている。

■高田ひろ子（ピアノ）大阪出身のピアニスト／コンポーザー。5歳からピアノを学び、ジャズ奏法を高瀬アキ、作曲法を二橋潤一と松平頼暁、現代音楽ピアノ奏法を平尾はるなに師事。1995年に高田ひろ子カルテットを結成。98年に独レーベルより『a song for someone』でアルバム・デビュー。

■杉山茂生（ベース）東京都出身。20歳の頃よりジャズに傾倒し、ベーシストを志す。スタンダードジャズからクラシック音楽までのベース奏法、音楽理論を学ぶ。1987年にカレッジジャズ祭で優秀ソロイスト賞を受賞しジャズベーシストとしてプロになる。ジミー竹内、ミッキー・カーチス、世良譲等のバンドに参加。

■楠本卓司（ドラム）1950年生まれ。同志社大学在学中から演奏活動。1971年、上京し本田竹廣トリオでプロデビュー。様々なバンドでライブやレコーディング、ヨーロッパ・アジア他のツアーなど、各方面でドラムを叩き続ける。

■中澤美喜雄（唄）青森県弘前市（旧相馬村）出身。平成8年津軽民謡全国大会優勝。NPO法人青森民謡協会理事。

■中野孝人（津軽三味線）我孫子市出身。21歳の時津軽を旅し偶然弘前の民謡酒場「山唄」で津軽三味線を聴いて感動。29歳で津軽三味線を始める。孝人会主催。我孫子周辺で活動している。



ウクライナ支援チャリティコンサート

つがる縄文の詩

2022年11月3日（木・文化の日）

15:00 START

つがる市「松の館」

司会：

ラジオパーソナリティ 大友寿郎

アシスタント 上東健太

■主催・共催：津軽コンサート・外ヶ浜町 Esperanza・合同会社 imajimu

■協賛：弘前総合警備株式会社 後援：つがる市教育委員会・NPO法人つがる

縄文の会 ■協力：企画プロデュース 鳴海廣



SUGARU
CONCERT